

The background image is an aerial photograph of a coastal area. On the left, a deep blue ocean meets a sandy beach. A winding road cuts through a green, hilly landscape that slopes down to the sea. The sky is overcast with white and grey clouds.

第64回北海道中学校理科教育研究会 釧路大会【概要】

釧路市立景雲中学校(第2学年)

釧路市立共栄中学校(第3学年)

釧路市生涯学習センター(全体会場)

北海道教育大学附属釧路義務
教育学校後期課程(第1学年)



タイムスケジュール

				12:30					16:20
8:45	9:45	10:45			13:00	13:30	14:30	16:00	
受付	公開授業	分科会	移動・昼食	開会式	全体会	研究発表	講演		閉会式

北海道教育大学附属 釧路義務教育学校後期課程

第1学年

授業者: 河津 雅幸



釧路市立景雲中学校

第2学年

授業者:板垣 航平



釧路市立共栄中学校

第3学年

授業者:長谷 泰昌



釧路大会研究主題

自然との共存・共栄を目指し、学びに向かう力を育成する理科教育

自然との共存・共栄を目指し、学びに向かう力を育成する理科教育

基本的な姿勢として

「生徒」が主語になる授業作りを。

自然との共存・共栄を目指し、学びに向かう力を育成する理科教育
研究の概要

連続的な学びのための単元のデザイン

- ・生徒が既習事項のつながりを感じられる単元のデザインとする。
↓
- ・教師が、生徒の思考の流れを想像しながら単元のデザインを作る。
↓
- ・教師が生徒の言葉を使って課題を設定しやすくなる。
↓
- ・生徒の言葉を使った課題設定とすることで、生徒が学びに主体的に向かいやすくなる。

自然との共存・共栄を目指し、学びに向かう力を育成する理科教育

研究の概要

連続的な学びのための小中連携

- ・児童生徒の連続的な学びのためには必要なことであると考える。



- ・教師が、互いの学習内容や身につけた力を知り、学びのつながりを意識して授業を行う。(どんな見方・考え方を使うのか。)



- ・教師の授業での児童生徒への言葉かけが変わってくる。
- ・児童生徒も学びのつながりを意識して授業に取り組むことができる。



- ・資質・能力の育成が図られる。

昨年度の小中連携について(取組の一例)

第72回北海道小学校理科教育研究大会
釧路大会において
中学校教員が授業作りに参加。

互いの校種の教員が子供がどの段階
で何を学び、どんな力を身に付ける
のかを共有できた。

昨年度の小中連携について(取組の一例)

身につけた理科の見方・考え方のどれを使えば「目の前の課題」を解決できそうかの見通しをもつ



見通しをもつことで「進んで学習に取り組める」ようになると考える。

これらを大切にすることで…

生徒が

- ・進んで学びに向かう姿
- ・学習の過程を行き来し、課題解決に向かう姿
- ・ICTを用い、課題解決に向かう姿

を引き出せると考える。

当日のご参加を
お待ちしております。